



新たなスタート。 新領域への“挑戦”でさらなる成長を目指す。

西部電気工業株式会社



西部電気工業株式会社

私たち西部電気工業グループは「常に未来を先見し、卓越する技術力と不断の挑戦により、豊かな社会づくりに貢献する。」ことを経営理念に掲げています。70周年という節目を迎えられたことに感謝するとともに、今一度、「一体一心」創業時の精神に立ち返り、さらなる成長・発展を目指します。

1. はじめに

当社は、昨年7月に会社創立70周年の節目を迎え、新たなスタートを切りました。

1947年の創業以来、日々進化する通信インフラ設備の構築を主力として事業活動を展開してきました。その他の事業もさらなる成長に向け、積極的に取り組んでいるところです。そうし

た中、西部電気工業グループは“『企業力』（安全・品質、法令順守、社会貢献）の強化”を経営方針に掲げ、さらなる成長・発展を目指します。特に安全・品質、コンプライアンスなどの確立は、会社運営上の基礎となることからさまざまな施策を展開して取組みを強化しています。また、社会貢献についても地域に密着した環境保全活動を行っています。2010年に熊本県菊池市との間で「企業・法人等との協働の森づくり『西部の森きくち』協定」を締結して森林整備活動を始め、2015年には、福岡県糸島市の「糸島市松林保全アダプト事業」

に参画し、松林の保全活動にも積極的に取り組んでいます。

さらに、熊本市の旧本社用地の再開発事業として複合オフィスビル建設に着手し、2019年8月の完成を予定しています（写真1）。オフィス・商業店舗・駐車場が一体となった複合ビルを建設し、熊本における「雇用の創出」や「賑わいづくり」など近隣と一体となった再開発を進めています。

当社は、一昨年の地震で被災した熊本の“創造的復興”に貢献するとともに、地域の活性化を後押ししていきます。

西部電気工業グループ経営理念

経営理念

西部電気工業グループは、常に未来を先見し、卓越する技術力と不断の挑戦により、豊かな社会づくりに貢献します。

経営方針

- 現場直視による現場力強化
- 果敢な挑戦による新たな価値の創造
- 一体一心によるグループ総合力発揮
- グループで働く喜びと誇りの実現
- 企業力（安全・品質、法令順守、社会貢献）の強化

行動指針

- お客様からの“ありがとう”が行動の原動力！
- 生命線は現場にあり、現場最優先で取り組もう！
- 挑戦なくして成長なし、明るく、元気に、まず「やってみよう！」
- 「個人」「組織」「グループ」の力を結集し、一人ひとりが責任を持って取り組もう！
- コンプライアンス憲章に基づき誠実に行動しよう！

西部電気工業株式会社

【西部電気工業グループ経営理念】



写真1 熊本市の旧本社用地に複合オフィスビルを建設（イメージ図）

2. 2WAYによる現場安全確認の取組み

西部電気工業グループでは、『安全なくして、事業の発展はない。事故が発生しない職場環境を作ること。そして、その永続的実現』に向け、安全衛生方針を掲げて「人身・設備・交通（加害／自損）事故ゼロの達成」を目指しています。

当社グループの取組みの中で、『2WAYによるユーザ班への現場安全確認の取組み』についてご紹介します。

① 目的

開通工事等の高所作業時における重大な人身事故をなくすため、施工者が常に安全を意識できる仕組みを取り入れ、SO工事における各現場での危険箇所を現場と事務所で把握し、安全施策や注意するポイントを双方で確認することを目的としています。

② 取組み概要

現場と事務所で事前に危険なポイントを踏まえた上で、現場の危険なポイントもリアルタイムで写真を見ながら2WAY担当（事務所）と施工班で問診を行い、2WAYで安全確認を日々取り組んでいます。

効率良く運用するために、事前に危険ポイントを判定するシステムを既存の設備110番支援システムをカスタマイズして道路横断確認機能^{※1}を追加し、SOPROシステム^{※2}と連動する流れを構築しました。

カスタマイズした機能により地図・航空写真で道路中央線の有無と、高所

※1 道路横断確認機能：自社で作成した設備110番支援システムをカスタマイズし、地図・航空写真で道路横断の有無を確認する

※2 SOPRO：NTT様からの配信オーダーと連携し、SOを工事長、施工班へ通知し、ペーパーレス化と日報報告する自社開発のシステム

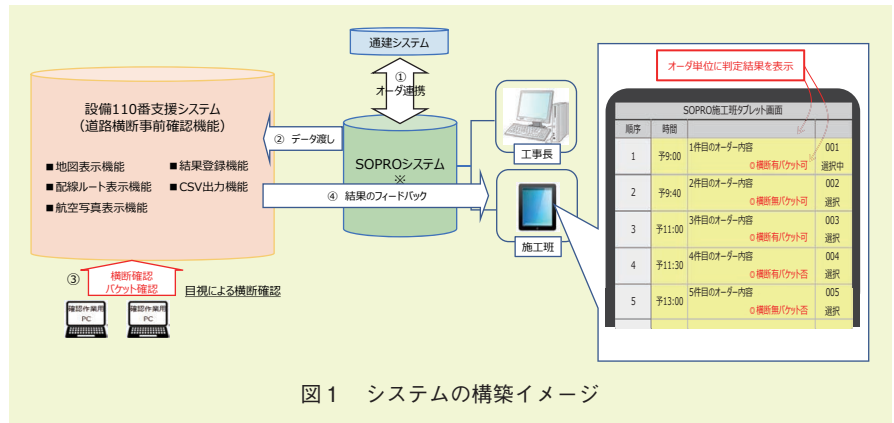


図1 システムの構築イメージ

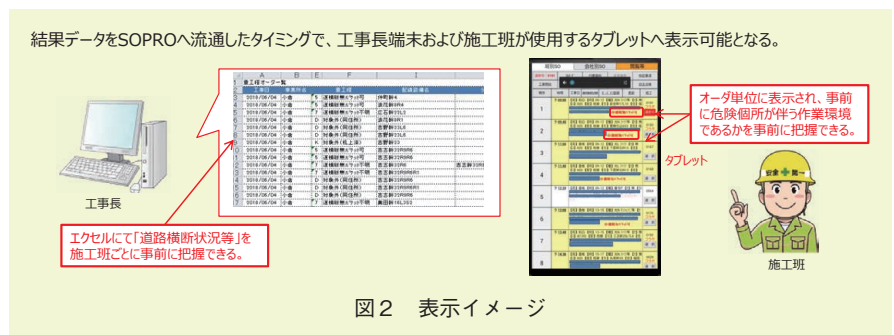


図2 表示イメージ

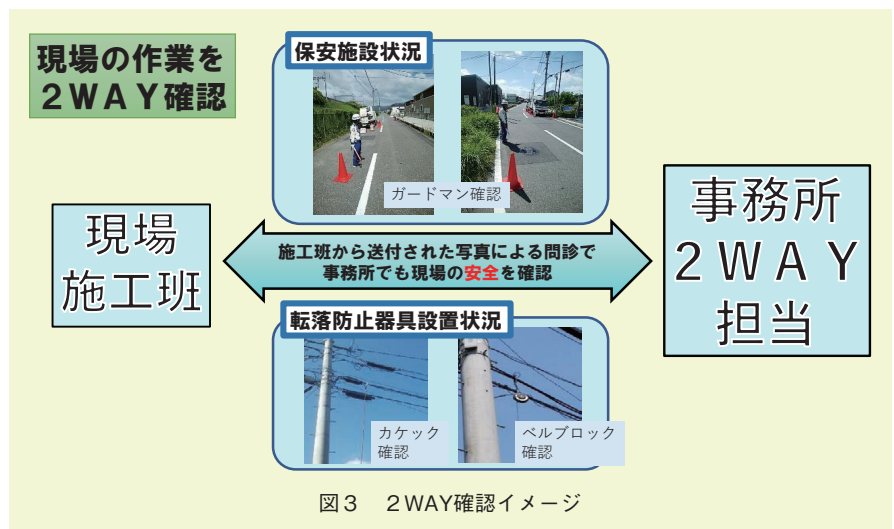


図3 2WAY確認イメージ

作業車が設置可能であるかの判断を目視で行い、判定結果をSOPROシステムへ流通させ、施工班が所持しているタブレットにSOPROシステムから通知できるようにしました（図1・2）。

SOPROシステムから通知される道路横断判定結果を基に、光ドロップケーブルやメタル引込線の施工場所が、道路横断箇所の施工が伴うか、施工場所に高所作業車が駐車できるのか

等を施工前日に事務所で確認でき、安全な作業を確保するために必要な体制（高所作業車の手配、専門交通誘導員の要否）を確認できるようにしました。

現場で道路横断箇所または、昇柱作業箇所がある場合は、配備しているスマホ端末で施工場所の保安施設状況および、転落防止器具設置状況等の写真を撮り既存の施工現場確認システムに

送信します。送信された写真を2WAY担当が、確認し現場と事務所の2WAYで安全確認を行います(図3)。

2WAYによる確認項目

(リアルタイム確認)

①道路横断での配線作業

- ・ 専門誘導員の配置数確認
- ・ 高所作業車の使用状況確認
- ・ 高所作業車を使用しない場合は、転落防止器具の取付状況確認
- ・ 転落防止器具を取付できない場合の確認

②昇柱を伴う作業

- ・ 転落防止器具の取付状況確認
- ・ 転落防止器具を取付できない場合の確認

本取組みにおいて安全が確保できない場合の工事中止および2WAY実施などの月次周知等による現場第一線の作業員の安全意識の向上に寄与しています。

3. 安全意識の向上に向けて

西部電気工業グループは、NTT事業部門・開発営業部門において、トップから現場第一線まで安全意識の高揚を図り、基本動作の徹底に向けた各種安全施策に取り組んでいます。

特に、NTT様の工事を実施している作業員に対しては、さらなる安全意識の向上・強化の取組みの一環として、“褒める仕組みづくり”を推進しています。

これまで、「指差し呼称」(写真2)および「ボイスKY」(写真3)の定着化によるヒューマンエラーの防止や過去の事故事例の振り返りによる再発防止など、事故絶滅に向け、グループを挙げて取り組んでいるところですが、さらに安全作業の徹底と意識の向上を目指し、現場一線で活躍いただ

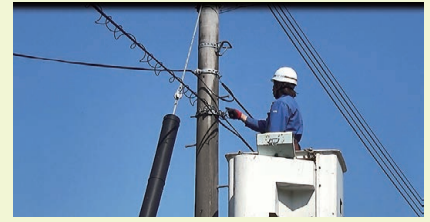


写真2 指差し呼称



写真3 ボイスKY

ている各協力会社の施工班を表彰する取組みを始めました。

安全パトロールなどの機会を通じて事故防止に向けた指導を行うだけでなく、さまざまな危険が潜んでいる現場作業の中で、作業員1人ひとりがキチンと基本に立ち返り、安全作業に取り組んでいる作業班を評価し、表彰を行います。表彰された優良班については、実際の作業現場を撮影した実施状況を安全確認日などの機会を利用し、全社に水平展開を行っています。

併せて、積極的に「ヒヤリ・ハット」事例の登録を取り組んでいた協力会社に対しても表彰を行いました。

このように、“褒める仕組みづくり”を推進することで、現場で作業を行う作業員1人ひとりの安全意識向上・強化を図りながら事故撲滅に努めていきます。

4. 新たな事業領域へのチャレンジ

当社が進めている新たな事業領域へのチャレンジについて、その取組みの一端をご紹介します。

当社が以前より得意とするところの、高速道路上での通信線路工事、非

常電話工事に加え、今回、混雑情報提供設備の構築という九州初の特殊な設備工事を受注しました。高速道路を走行中のドライバーにSAやPAの駐車場混雑情報を事前にお知らせする設備です。SA・PAにカメラを4台～8台設置して駐車スペースを撮影したあと画像解析を行い、混雑状況を判断し、その情報をSA・PA手前の本線上に設置した大型の表示板にて混雑情報をお知らせするというシステムになっています(写真4)。構築にあたっては、SA・PAの拡張工事も同時に進んでおり設置位置の協議が難航、また、九州北部豪雨の影響で作業中止など、アクシデントもありましたが、現場代理人をはじめ、施工協力会社、機器納入メーカーの皆様が一丸となり、お客様のご要望に応えたいという一心で、先日無事に上り線試験運用に至りました。現在は下り線の運用開始に向け順調に施工を進めています。

また、老朽化した下水道管等を非開削で更生する事業にも注力しています。オメガライナー工法を使い、老朽化したコンクリートや鋼管などの小口径管路をスピーディーに更生します(図4)。形状記憶を持つ塩化ビニル管

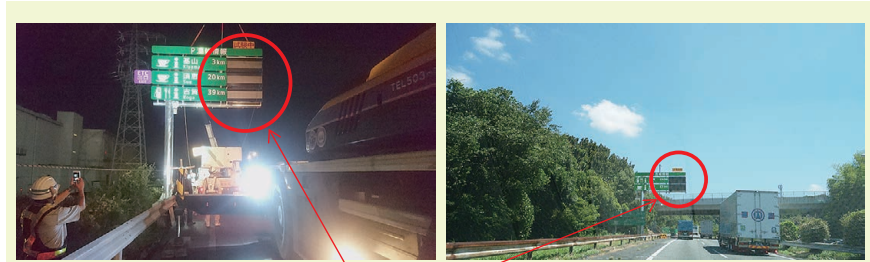
を加熱のみで円形にスピード復元するため、安全・確実な管路更生が可能です。また、非開削工法のため周辺環境への影響も最小限で済み、スピーディーで容易な施工が可能です、工期短縮とコスト削減が図れます。

こうした新たな事業領域へのチャレンジを積極的に進めるなど、私たち西部電気工業グループは、収益構造の変革による経営基盤の確立を目指すとともに、豊かな社会づくりに貢献します。

5. おわりに

当社は、10月1日に株式会社協和エクシオと株式交換による経営統合を行いました。通信建設業界を取り巻く厳しい環境下において、両社の企業価値を最大化する最良の方法と判断し、決定しました。

これまで強固な施工体制を築いてき



SA・PAの駐車場混雑情報がここに表示

写真4 SA・PA混雑情報提供設備工事

た九州・沖縄エリアに加え、近年では関西および首都圏エリアにおける事業拡大に積極的に取り組んでいましたが、今回の経営統合によって、グローバルかつ全国規模で事業を展開している協和エクシオと一体となることで、両社の強みを活かした相互連携および協業等を進めていきます。さらに、両社の経営資源である営業基盤・技術基

盤を活用し、両社が得意とする事業領域を共有することにより、新ビジネス開拓・拡大に積極的にチャレンジし、シナジー効果の最大化を図ります。

これからも私たち西部電気工業グループは、地域社会に貢献し、お客様に選ばれる企業としてさらに成長・発展を目指します。

施工

- ① 既設管への引き込み。
- ② 蒸気加熱で円形復元。
- ③ 圧縮空気により既設管と密着・冷却。

特長

- 加熱のみで円形にスピード復元。安全性・確実な管路更生
 更生材は(公社)日本下水道協会の工場認定品で品質が安定。有機溶剤を用いないために臭気が発生ありません。
- 非開削工法だから周辺環境への影響も最小限
- 強度・耐久性・耐蝕性に優れた塩ビ管路に更生
- スピーディーで容易な施工性、工期短縮とコスト削減

(出典：下水道管リニューアルのすすめ【日本SPR工法協会】)

図4 オメガライナー工法